

岩槻駅周辺まちのあり方ビジョン【概要版】

1. ビジョンの目的

本市の副都心であり、地下鉄7号線延伸に伴い鉄道結節点となる岩槻駅周辺地区について、延伸による地区のポテンシャル向上を見据え、鉄道結節点に相応しいまちの将来像、ハード・ソフト施策のイメージを示し、今後の岩槻駅周辺地区でのまちづくりの実施につなげること。

2. 延伸のインパクトを活かすまちづくりの視点

- 新たなまちづくりの展開
 - 駅周辺の再整備と賑わいのまちづくり
- これまでのまちづくりの継続と拡充
 - 歴史文化を活かしたまちづくりの継続と拡充
- 地域住民との共創
 - シビックプライドの醸成

3. 岩槻駅周辺の課題

- 課題① 既存事業や取組を活かしつつ、地下鉄7号線延伸のインパクトを踏まえるとともに、単なる乗換駅とならないような岩槻駅周辺のまちづくりが必要
- 課題② 岩槻駅周辺はさいたま市の中でも高齢化率が高く、次世代を担う若者や子育て世代の定住・転入を促進するまちづくりが必要
- 課題③ まちの賑わいや物販の充足度等に関する住民の満足度が低く、魅力的なまちづくりや賑わいの創出が必要
- 課題④ 岩槻駅周辺の公共交通（鉄道以外も含む）の利便性が高いとは言えず、公共交通の更なる利便性向上や駅東西の連携強化を図ることが必要
- 課題⑤ 駅周辺に未利用地や容積率の利用実績の低い地区等があり、土地・空間の有効活用が必要
- 課題⑥ 来街者の増加が地域経済の活性化に十分につながっているとは言えず、両者をつなげる取組が必要
- 課題⑦ 歩道整備や自転車の走行・駐輪環境に関する住民の満足度は高くなく、自転車利用者や歩行者の利便性の向上が必要

4. 施策の方向性と取組のイメージ

方向性① まちの玄関口としての岩槻駅前空間の充実・・・・・・・・・・【課題①②⑦に対応】

- 取組のイメージ
- ・ 歩行者が滞留したくなる空間を創出する
 - ・ 賑わう場所を増やしていく
 - ・ 鉄道利用者をまちへ誘導する
 - ・ 商店街や観光スポットへ来街者を誘導する
 - ・ まちの顔となる景観をつくる
 - ・ 地下鉄の駅施設を活用する

方向性② 駅周辺部の土地・空間の有効活用による賑わいづくり・・・【課題①②⑤に対応】

②-1 需要の変化を最大限受け入れる

- 取組のイメージ
- ・ 基盤施設の改善と公共貢献を踏まえた土地の高度利用
 - ・ 若者世代、子育て世帯に必要な都市機能の確保・強化
 - ・ 駅と観光スポット等をつなぐエリアの魅力向上

②-2 需要の変化をマネジメント

- 取組のイメージ
- ・ 駐車場需要の増加に対するマネジメント
 - ・ 住宅需要の増加に対するマネジメント

方向性③ 交通ネットワークの充実による地区内外の連携強化・・・【課題②④⑦に対応】

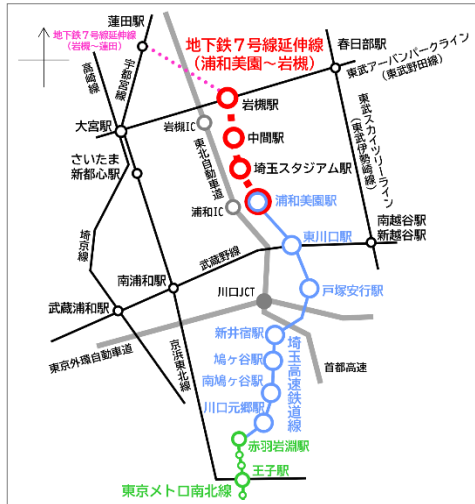
- 取組のイメージ
- ・ 鉄道の利便性向上
 - ・ バス・タクシーなどの利便性向上
 - ・ 自転車の安全性・利便性の向上
 - ・ 歩行者の生活道路における安全性の向上

方向性④ 観光交流・商業振興の充実、歩行者のウォークブル・・・【課題②③⑥⑦に対応】

- 取組のイメージ
- ・ 行きたくなる場所を増やす
 - ・ まちの情報を発信する
 - ・ 安全・快適に歩ける道路空間に変えていく
 - ・ 歴史文化を活かした街並みを形成していく

方向性⑤ 市民参加とエリアマネジメントの推進・・・・・・・・・・【課題③⑥に対応】

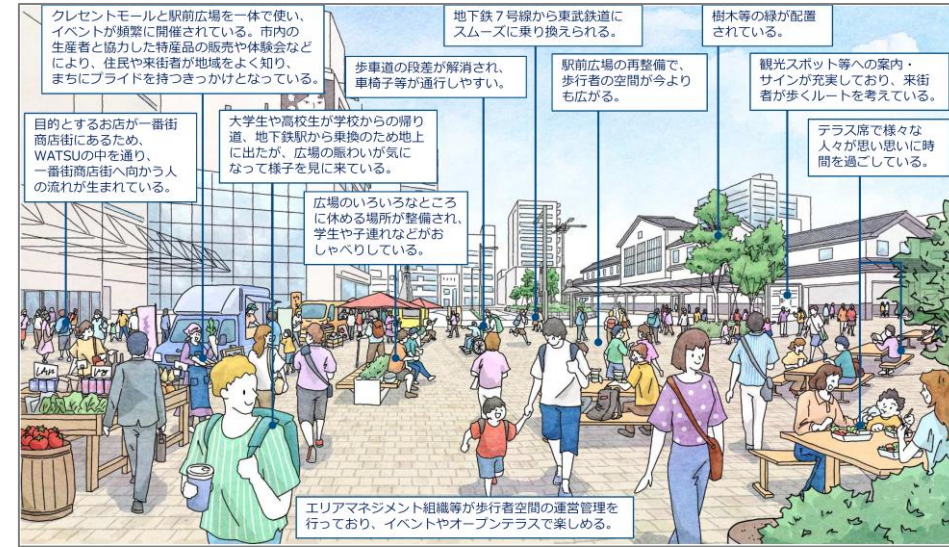
- 取組のイメージ
- ・ まちづくりプラットフォームによるエリアマネジメント



5. まちの将来像

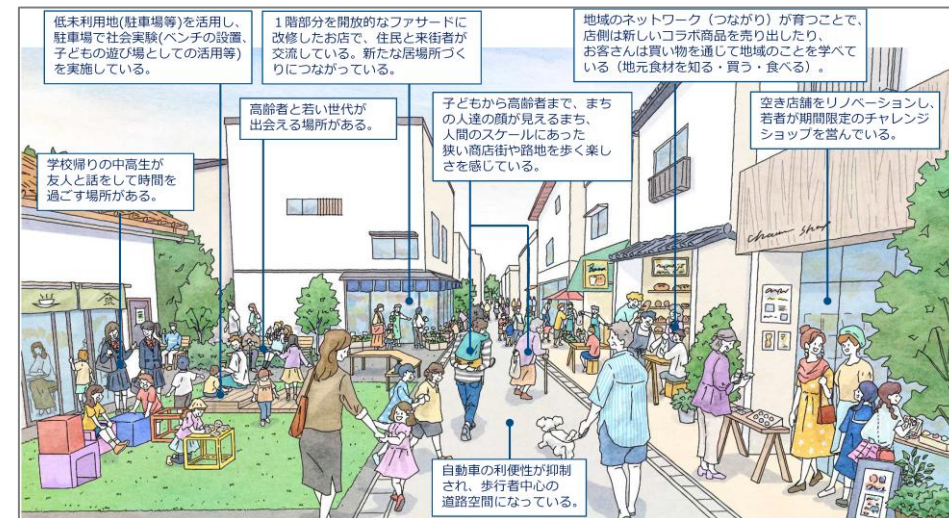
施策を実施することで実現する岩槻駅周辺地区のイメージを示すもの。

○駅前広場の再整備・活用イメージ



- ・ 乗換の「通路」だけでなく、多様な人々が思い思いの時間を過ごせる憩いと出会いの「広場」
- ・ 地元の事業者が主体となった賑わい空間の維持・運営

○ストリートの賑わいづくり（商店街）



- ・ 歩行者の目線に入る広義のパブリックなグランドレベル（建物低層階、空地、街路等）の魅力を活かし、チャレンジしたい、居場所がほしい、つながりをつくりたい、すべての人に開かれた場所
- ・ 日常と観光の両方を支える地域の拠点

○歴史文化を活かした街並みと歩きやすさ



- ・ 地域の資源が歩道から「見える化」された沿道の建物
- ・ 歩行者が快適に歩ける歩道空間

※上記はイメージの一例であり、具体的な事業等は今後検討されます。